

天神地区における子連れ家族の行動特性に関する研究

福岡大学工学部社会デザイン工学科 辰巳 浩, 堤 香代子, 吉城 秀治, 川崎 万太郎

1. はじめに

近年、我が国では少子化が社会問題となっており、それに伴う人口減少が危惧されている。その打開策の一つとして、様々な分野で子育ての支援がなされている。しかし、交通分野においては高齢者や身体障害者に対する支援は増えてきているが、子連れ者への支援は乏しいと言える。また、少子化と高齢化で中心商店街の在り方や消費者も変化しているため、都心の在り方が見直され、多くの人が来街しやすい環境を整えていかなければならない。

そこで本研究では、天神地区で多くの人が楽しく快適に過ごせるために、特定の土日に天神地区に来街する子連れ者と一般来街者に天神地区での行動のアンケート調査を行い、子連れ者と一般来街者の回遊行動の違いを明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

天神地区での回遊行動の分析のための主な調査項目は、個人属性、天神地区での回遊行動、小学生以下の子供を持つ人には天神地区以外で子供を楽しませるためによく行く場所等である。調査日は平成26年9月20日(土)、21日(日)、27日(土)の土日で、天神地区の4箇所に、子連れ者と一般来街者に同数のアンケート調査票を配布した。配布部数は各地点1,000部で合計4,000部である。回収方法は後日郵送回収で、回収部数は738部で、回収率は18.5%である。調査概要と調査項目を表1に示す。

表1 アンケート調査の概要

調査項目	概要
配布日	平成26年9月20日(土)、21日(日)、27日(土)
配布/回収方法	無作為配布、後日郵送回収
配布場所	福岡市天神(パルコ前、ライオン広場、エルガラ前、地下街)
配布部数	各地点1,000部で合計4,000部
回収部数、回収率	738部、18.5%
個人属性	性別、年齢、職業、子供の有無、来街頻度等
天神地区での回遊行動	調査日の交通手段、同行者の属性と人数、到着時刻、滞在時間、回遊回数、消費金額、天神地区での満足度(子供の様子)
天神地区以外で子供がよく行く場所	子供を連れて行く場所、そこを遊ぶ理由、交通手段

3. 分析結果

3-1. 個人属性

(1) 個人属性

天神地区738人の個人属性は男性24.0%、女性74.1%で、年齢は30歳代13.3%、40歳代21.4%、50歳代22.4%、60歳代20.9%、70歳以上15.2%で、年齢層に偏りはみられない。職業は有職者40.5%、パート・アルバイト15.6%、専業主婦24.0%である。

回答者738人のうち小学生以下の子供を持つ人は、幼児のみ6.8%、幼児と小学生の子供3.1%、小学生の子供5.7%であり、合計15.6%の115人が小学生以下の子供を持っている。なお、調査日に天神地区に小学生以下の子供を連れて来街した回答者は10.6%の89名である。分析では主に調査日に子供を連れて来街した子連れ者データを用い、一般来街者との回遊行動の違いを分析する。

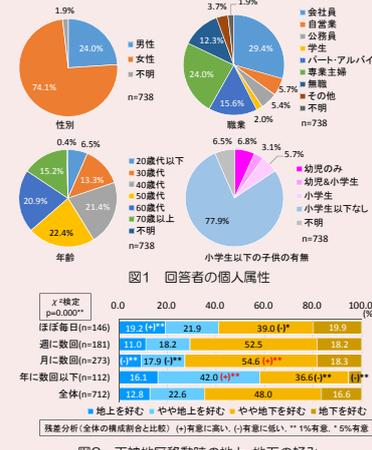


図2 天神地区移動時の地上・地下の好み

(2) 移動時の地上と地下の好み

天神地区を移動する際には、図2に示すように地下を好む割合が64.6%で多い。地上・地下の好みと天神地区への来街頻度との関係を独立性(χ²乗)の検定により検討した結果、有意水準1%未満で有意性が認められ、両者には強い関係があることがわかった。来街頻度が年に数回以下では地上を好み、月に数回以上では地下を好み傾向にある。残差分析から地上・地下の好みと天神地区への来街頻度の関係で、次のことがいえる。

- ・ほぼ毎日の来街者は地上を好む人が多い
- ・月に数回の来街者はやや地下を好む人が多い
- ・月に数回以下はやや地上を好む人が多く、地下を好む人は少ない

小学生以下の子供の有無と地上・地下の好みの関係、調査日の子連れの有無と地上・地下の好みの関係には有意性は認められなかった。

(3) 利用交通手段

天神地区への来街時の交通手段は、図3に示すようにバスが35.2%、西鉄電車20.2%、地下鉄17.1%である。なお、調査日の子連れの有無と交通手段との関係には有意性が認められた。子連れ者は自家用車が最も多く25.3%であり、一般来街者は9.9%に過ぎず、子連れの者の自家用車での来街割合が高い。残差分析から子連れの有無と交通手段の関係で、次のことがいえる。

- ・一般来街者はバスでの来街が多く、自家用車は少ない

(4) 同伴者数

同伴者の数は、図4に示すように1人が54.8%、2人が31.5%、3人が8.6%である。調査日の子連れの有無と同伴者の数との関係に有意性が認められた。子連れの者は自分自身を含めて2人が37.5%、3人が35.2%であり、一般来街者の場合は1人が62.3%、2人が30.7%である。残差分析から子連れの有無と同伴者の数の関係で、次のことがいえる。

- ・子連れ者は3人以上が多い
- ・一般来街者は1人が多く、3人以上が少ない



図3 来街時の交通手段



図4 来街時の同伴者数(自分自身も含む)



図5 天神地区への到着時刻と滞在時間



表4 回遊行動パターンの上位11

(5) 滞在時間

天神への到着時刻と滞在時間は、図5に示すように子連れ者は11時台に到着する人が多く、一般来街者は10時台に到着する人が多い。なお、到着時刻と滞在時間の関係には有意性が認められた。一般来街者は到着時刻が早いほど滞在時間は長い傾向にあるが、子連れ者は殆ど時刻で3時間以内の割合が多くを占めている。平均滞在時間は子連れ者が3時間40分、一般来街者は3時間45分である。残差分析から子連れの有無と滞在時間の関係で、次のことがいえる。

- ・子連れ者は14時台に来街時には1時間滞在が多い
- ・一般来街者は10時前到来時には7時間以上の滞在が多い
- ・一般来街者は11時前到来時には3時間滞在が少なく、5時間滞在が多い
- ・一般来街者は14、15時台の来街時には3時間滞在が多い

(6) 回遊行動

天神地区を27のエリアに分け、そのエリア間の移動ごとにそのエリアを訪れた目的と消費金額等を調査した。子連れ者および一般来街者ごとに、全回遊の1%以上の回遊がみられたエリア間を図6に示す。子連れ者は回遊が広範囲であり、一般来街者はデパート間の回遊が多く、回遊範囲も狭い。なお、平均回遊回数は子連れ者および一般来街者ともに2.9回である。

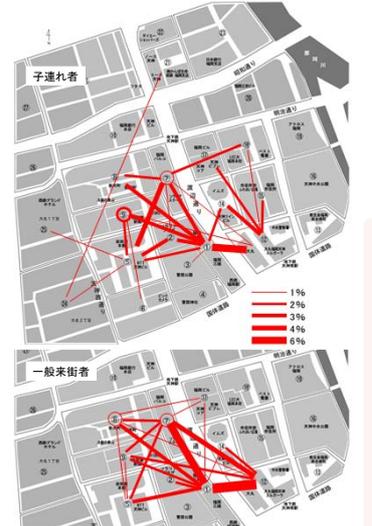


図6 天神地区での回遊行動

(7) 消費金額

回答者の年齢層は、図7に示すように20歳代以下が少ないものの他の年齢層に大きな偏りはみられない。なお、子連れの有無と年齢層の関係には有意性が認められた。子連れ者は30歳代と40歳代が多く、一般来街者は30歳代が少ない。残差分析から子連れの有無と年齢層の関係で、次のことがいえる。

- ・子連れ者は30歳代と40歳代が多いが、50歳代以上は少ない
- ・一般来街者は30歳代と40歳代が少ないが、50歳代以上は多い

消費をした来街者の平均消費金額を表2と表3に示す。平均消費金額は13,763円であり、子連れの有無で子連れ者12,603円、一般来街者13,930円で、1,300円ほど一般来街者が多く消費している。年齢層別では小学生以下の子供を連れて50歳代が21,650円、同様に60歳代以下が21,959円で、一般来街者の20歳代以下の20,387円よりも多い。また、子供を連れて40歳代以下は同年代の一般来街者よりも消費金額は少ない。交通手段別消費金額は、子連れ者および一般来街者ともに天神へ来街時の交通手段が自家用車利用者が21,500円台で、他の交通手段利用者よりも多く消費している。

(8) 回遊目的

27のエリア間の回遊目的を6つに分けて、回遊パターンを調べた。なお、回遊目的が複数回答形式であったために、優先順位を買物、食事、娯楽、休憩とし、1.買物のみ、2.買物・その他、3.食事・その他、4.娯楽・その他、5.休憩・その他、6.その他に集約した。

子連れ者89人と一般来街者649人の回遊回数3回までの回遊パターンの上位11位までを表4に示す。両者ともに上位3位までは買物→買物→買物、買物→回遊なし、その他→回遊なしという回遊パターンである。しかし、一般来街者の方が買物の割合が高く、子連れ者の方が買物以外の食事や娯楽等の目的で回遊するパターンが多い。

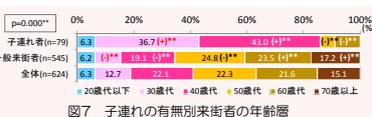


図7 子連れの有無別来街者の年齢層

表2 年齢層別平均消費金額 (消費をした来街者の平均)

来街者	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	平均(円)
子連れ者	12,668	10,636	11,280	21,650	21,959	-	12,603
一般来街者	20,387	14,910	15,482	13,559	14,326	9,190	13,930
全体(円)	19,397	13,341	14,447	13,791	14,722	9,190	13,763

表3 交通手段別平均消費金額 (消費をした来街者の平均)

来街者	西鉄電車	地下鉄	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩	平均(円)
子連れ者	9,629	9,707	10,763	21,523	3,450	3,013	12,603	
一般来街者	12,872	12,218	11,794	21,535	9,749	18,509	13,930	
全体(円)	12,500	11,852	11,719	21,532	9,022	16,934	13,763	

そこで、両者の娯楽・その他と休憩・その他の目的での各回遊の人数と割合を表5に示す。娯楽・その他の回遊では一般来街者が各回遊2～3台に対し、子連れ者は1回目の回遊から11%を占め、2回目の回遊では約18%にも達する。

休憩・その他の回遊でも子連れの割合が高く、2回目の回遊で約8%を占める。

(9) 来街満足度

天神での回遊における満足度は、図8に示すように満足38.2%、やや満足55.6%で、やや満足を含めると概ね90%以上は満足している。なお、子連れの有無と満足度の関係には有意性が認められた。子連れ者は一般来街者よりも満足度が低く、やや不満が12.2%を占める。残差分析から子連れの有無と満足度の関係で、次のことがいえる。

- ・子連れ者はやや不満が多い
- ・一般来街者はやや不満が少ない

(10) 天神地区以外で子供を連れて行く場所

小学生以下の子供を持つ回答者(115名)には、天神地区以外で子供をよく連れて行く場所を3つまで挙げてもらった。その結果、208回の回答が得られ、それを7つに分類し、構成割合とその移動時の交通手段での自家用車の利用率を図9に示す。最も多かった場所はショッピングモール、次いで大規模公園、天神以外の都心・文化施設である。なお、ショッピングモールへの交通手段は自家用車が79.2%を占める。

ショッピングモールへよく連れて行く理由は、子供がいると買物にもなかなか行くことができないので、子供の遊ぶ場所があるショッピングモールは子供も退屈することなく、スムーズに買物をするところである、買物と子供を遊ばせることのできることであった。

回答者の中には複数のショッピングモートを挙げていた人が存在したために、複数の場合は1つとして処理し、89名の子連れ者が調査日に天神地区へ来街したときの交通手段との比較を図10に示す。子連れ者が天神地区へ来街するときの交通手段は自家用車が25.3%に対し、ショッピングモールは76.3%であり、自家用車利用率が非常に高い。



図8 天神地区での回遊の満足度

表5 娯楽と休憩目的の回遊

来街者の目的	1回目	2回目	3回目	合計
娯楽・その他	10	16	6	32
休憩・その他	22	24	16	62
子連れ者(人)	11.24	17.98	6.74	35.96
一般来街者(人)	3.39	3.70	2.47	9.56
子連れ者(%)	0	7	3	10
一般来街者(人)	21	14	17	52
子連れ者(人)	0.00	7.87	3.37	11.24
一般来街者(人)	3.24	2.16	2.62	8.02

表5 娯楽と休憩目的の回遊



図9 天神地区以外で子供を連れて行く場所

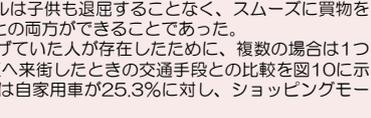


図10 子供を連れて行くときの交通手段

4. まとめ

本研究で、子連れの者は自家用車、一般来街者はバスでの来街が多い、子連れ者は3人以上、一般来街者は1人での来街が多い、滞在時間は両者とも約3時間40分、回遊回数は両者とも2.9回だが子連れ者は広範囲に回遊、来街者の年齢層は子連れ者が30歳代と40歳代、一般来街者は50歳代以上が多い、消費金額は子連れの50歳代と60歳代が多く、一般来街者は20歳代以下が多い、自家用車での来街者は消費金額が多い、子連れ者は娯楽や休憩の回遊が多い、子連れ者は自家用車の利用率が高く、子供を遊ばせることができるショッピングモールをよく考えていることが明らかになった。

商業地としての都心の在り方を考えるうえでこれらを踏まえ、子供が楽しく大人の買物に付き合える都心を整備していく必要がある。さらに、天神地区での子供が、安心して自由に遊ぶことができる空間のあり方について、また、子連れの者の自家用車依存度が高いことから、天神地区へ自家用車で来街しやすい駐車場の在り方、環境の整備等の研究を今後進めていく必要がある。